



# 2018年度 決算説明会

2019.5.17

明治ホールディングス株式会社

1. 2018年度総括
2. 2019年度見通し
3. 2020中期経営計画

- 本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定はご自身でご判断をお願いいたします。
- 本資料に記載された業績見通しなどの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報、および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。
- 本資料には、薬品(開発中の製品を含む)に関する情報が含まれておりますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 1. 2018年度総括

## 2018年度 連結決算のハイライト



(億円)	17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績		
				前年同期比	計画比
売上高	12,408	12,655	12,543	+1.1% +135	△0.9% △111
営業利益	946	1,010	983	+3.9% +37	△2.6% △26
営業利益率	7.6%	8.0%	7.8%	+0.2pt	△0.1pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	612	710	618	+1.0% +5	△12.9% △91
EPS	422.15円	489.61円	426.61円	+4.46円	△63.00円
1株当たり配当金	130円	130円	140円	+10円	+10円
配当性向	30.8%	26.6%	32.8%	+2.0pt	+6.2pt
ROE	13.1%	13.8%	12.2%	△0.9pt	△1.6pt
設備投資額	717	793	712	△0.7% △5	△10.2% △81

- 前年同期比では増収増益も計画には届かず
- インドの医薬品子会社メドライク社に関するのれんの一時償却により  
当期純利益は前期並みとなり、計画を下回る



## 2. 2019年度見通し

# 2019年度 通期連結見通し

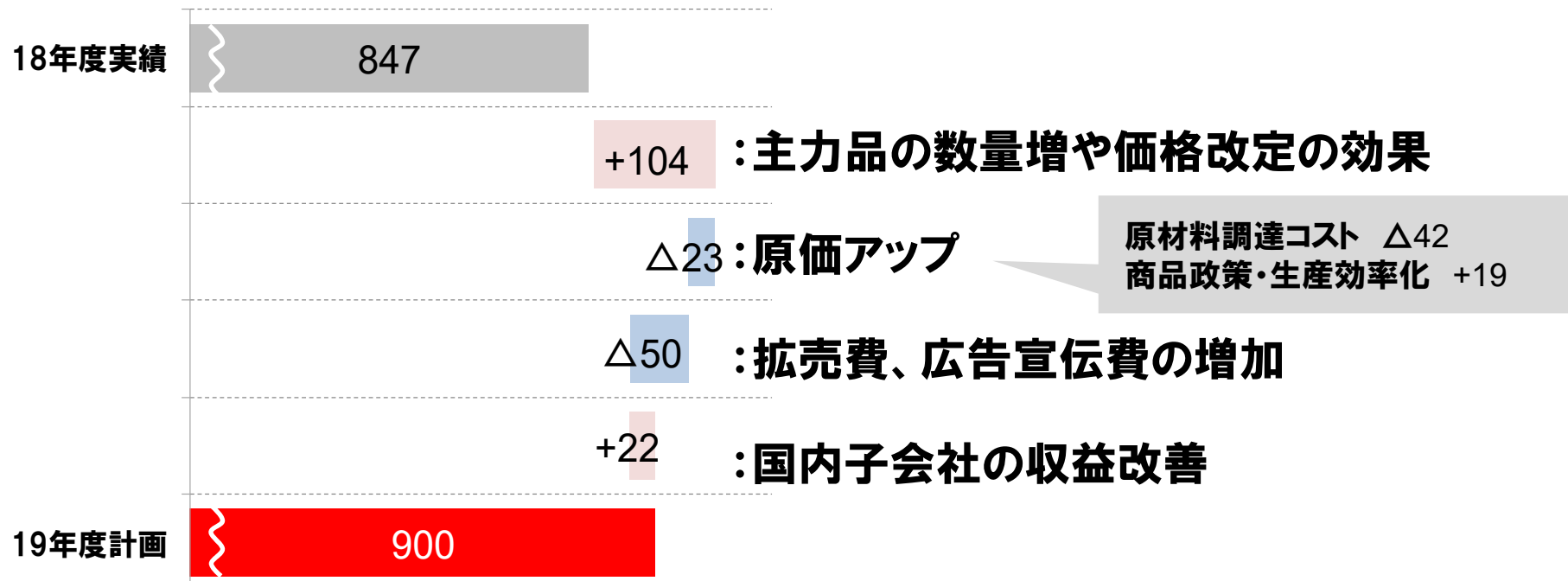


(億円)	18年度 実績	19年度 計画	前年同期比
売上高	12,543	13,090	+4.4% +546
営業利益	983	1,080	+9.8% +96
営業利益率	7.8%	8.3%	+0.4pt
親会社株主に帰属する 当期純利益	618	675	+9.1% +56
EPS	426.61円	465.44円	+38.83円
1株当たり配当金	140円	140円	—
配当性向	32.8%	30.1%	Δ2.7pt
ROE	12.2%	12.3%	+0.1pt
設備投資額	712	991	+39.2% +279
営業CF	1,121	1,079	Δ42
フリーCF	118	84	Δ34

(億円)	18年度実績	19年度計画	前年同期比
売上高	10,566	10,900	+3.2% +333
営業利益	847	900	+6.2% +52

## 営業利益増減分析

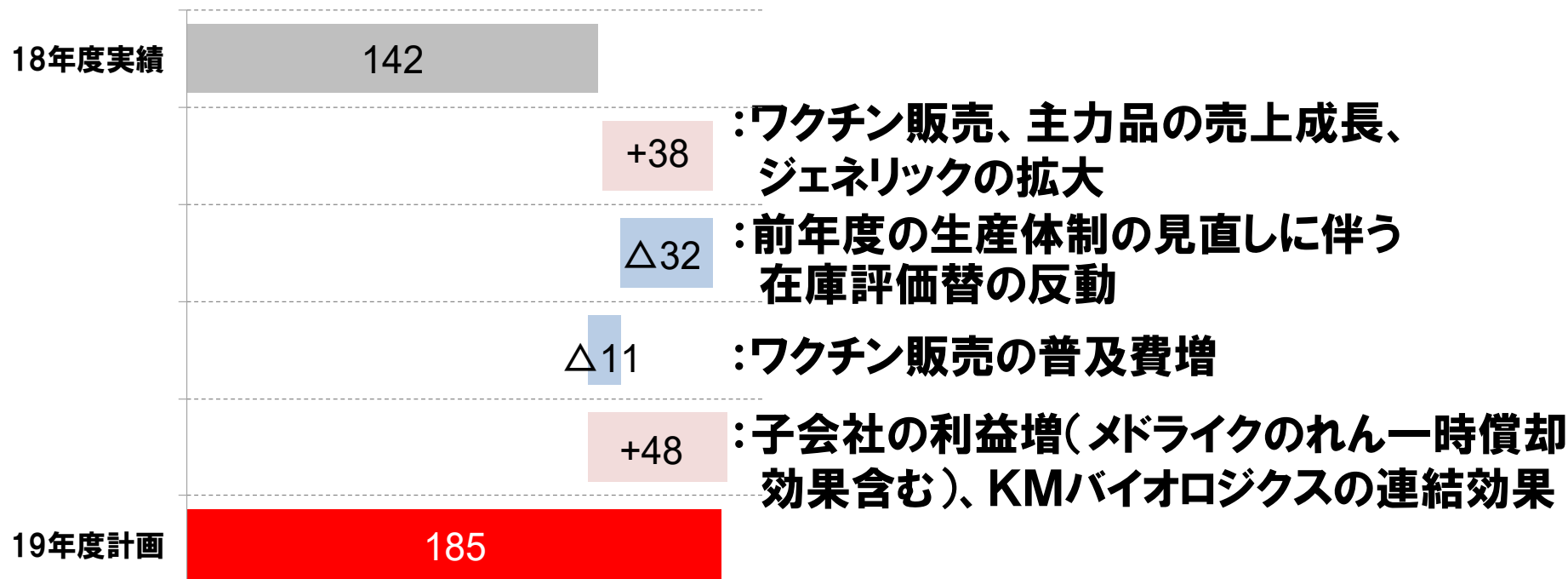
(億円)



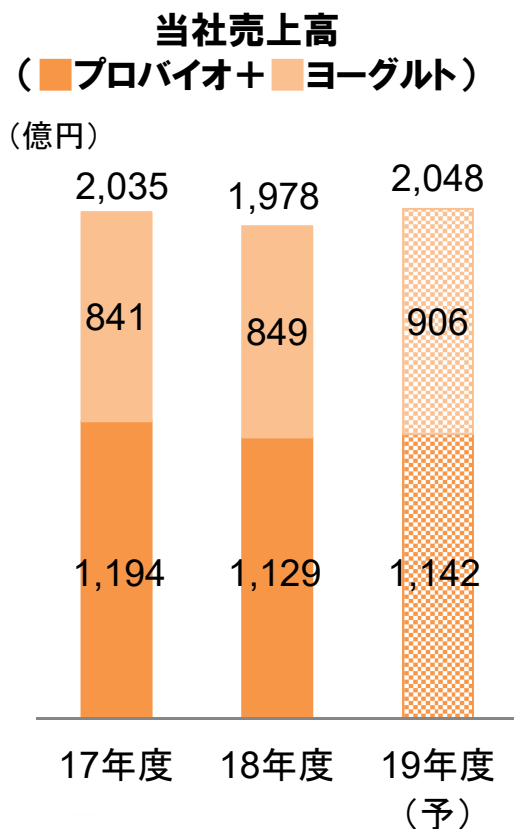
(億円)	18年度実績	19年度計画	前年同期比
売上高	1,986	2,205	+11.0% +218
営業利益	142	185	+29.9% +42

## 営業利益増減分析

(億円)







プロバイオ

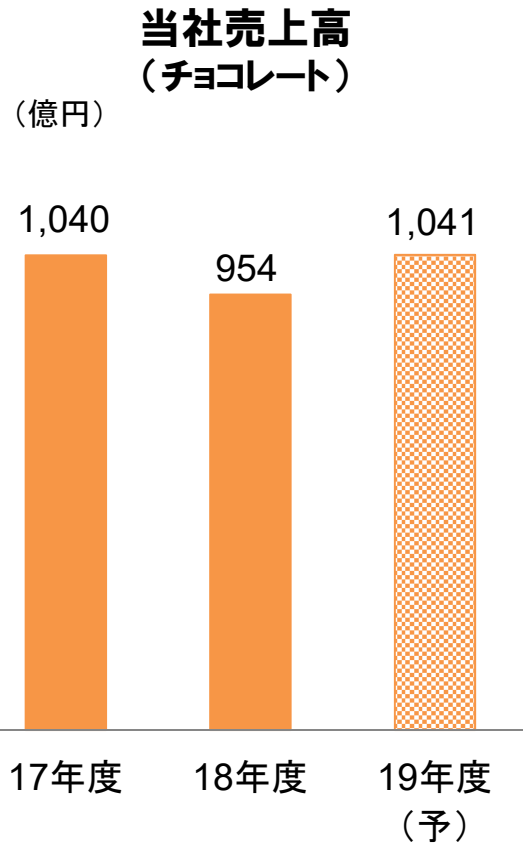
● コミュニケーション施策の強化と店頭での売り場づくり徹底により成長軌道への回帰を目指す

- ・R-1 TVCMの継続的实施と店頭でのまとめ買いの促進
- ・LG21 新メッセージ「胃から元気」をTVCMで訴求
- ・PA-3 機能性表示食品「尿酸値の上昇を抑える」として価値訴求

ヨーグルト

● プレーンヨーグルト(400g)の販促提案の継続実施と付加価値商品の定着を図る

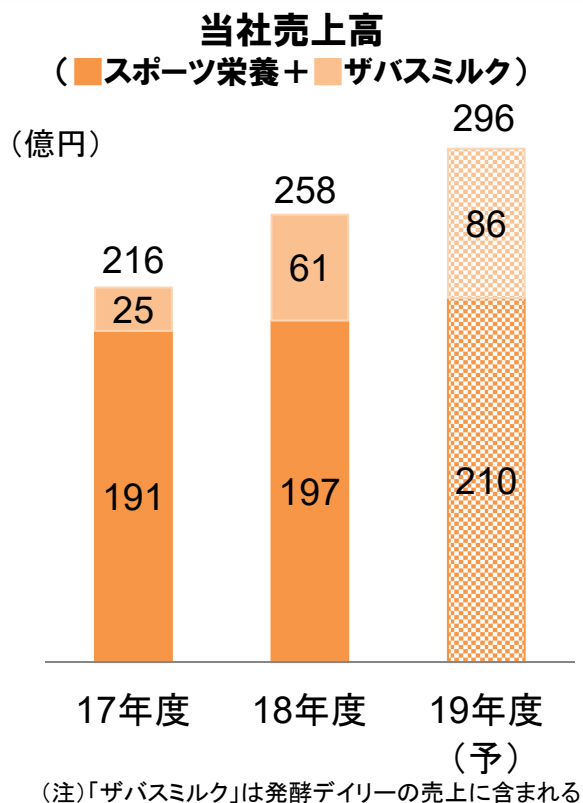




(注) 上記18年度は取引制度変更の影響を含む

- **健康志向チョコレートの更なる売り上げ拡大**
  - ・「チョコレート効果」の健康価値を訴求しブランド認知を更に拡大
  - ・「オリゴスマート」など新たなテーマにもチャレンジ
- **大人の嗜好品としてのチョコレート文化を醸成する**
  - ・カカオの持つ様々な価値を伝えるマーケティング活動を強化





- 既存チャネルに加え、スーパーなど食系量販店への取り組みを強化、プロテイン使用者の裾野拡大を図る
- 下期は新工場の稼働により品質を向上、新製品を展開する
- ザバスミルクは大容量ボトル発売により食シーンの拡大を目指す

### 倉敷新工場

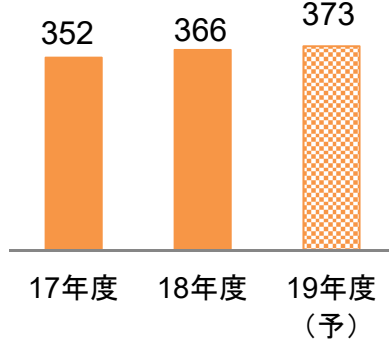


(新工場完成イメージ図)

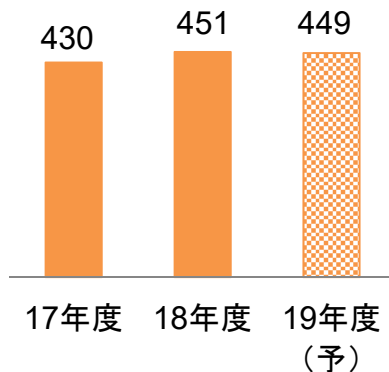
- 2019年下期稼働予定
- 生産能力 11,000t/年  
(現状の約2倍)
- 投資金額 180億円



当社売上高（億円）

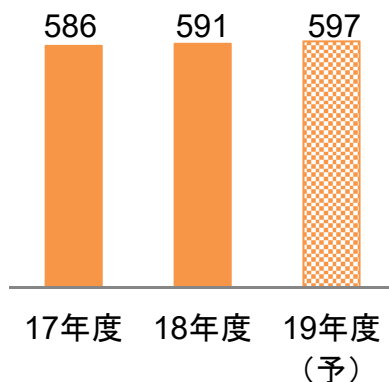


- 力強い需要を背景に、ナチュラルチーズが伸長し市場が拡大
- 生産能力が拡大したカマンベールチーズを中心に売り上げ拡大を図る

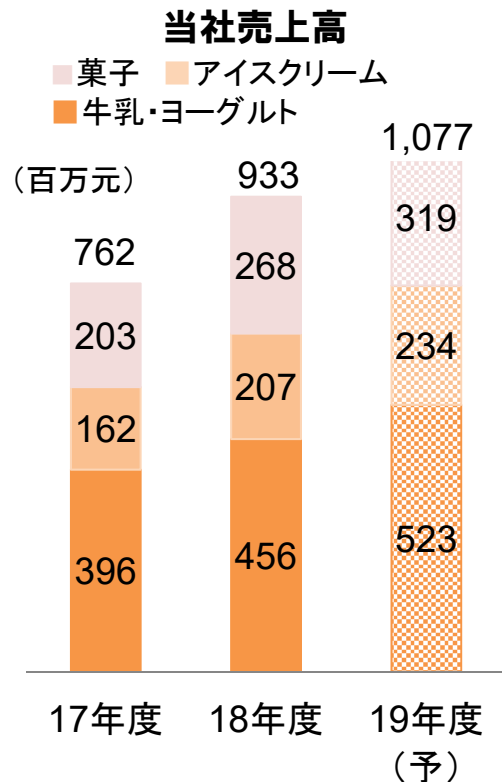
デザート  
フロースン

- エッセルブランドの売り上げ最大化
- 新たな付加価値商品の開発を推進

業務用商品



- 生乳・乳製品需給を鑑みつつ、付加価値商品の拡大により利益成長を目指す
- メニューや使い方提案の強化により新規顧客の開拓を図る



## ● 牛乳・ヨーグルト

- ・ 順調に市場拡大するチルド牛乳は、生産能力増強により市販・業務用ともに成長を図る
- ・ 競争激しいヨーグルトは、SNSを活用したコミュニケーション強化と新商品投入により売り上げ拡大を図る

## ● 菓子

- ・ 主力の「メルティーキッツ」やナッツチョコを中心に引き続き成長を目指す

## ● アイスクリーム

- ・ プレミアムアイスを拡売、外省エリア開拓やECチャネルへの販売を強化

### 中国統括会社設立

- ・ 2019年3月営業開始
- ・ 中国事業全体での最適戦略を立案、意思決定の迅速化により事業拡大を推進



食物繊維入りヨーグルト



プレミアムアイス

## 1. 新パッケージの取り組み

- ・ 遮光パッケージによる風味の良さ、リキャップによる衛生面や利便性が浸透し売り上げは回復基調
- ・ キャップの改良により不満点を解消（19年4月九州地区から）

### キャップの改良



従来品（外蓋）



従来品（内蓋）



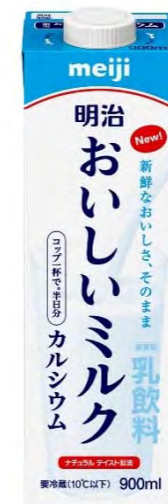
### 新キャップ

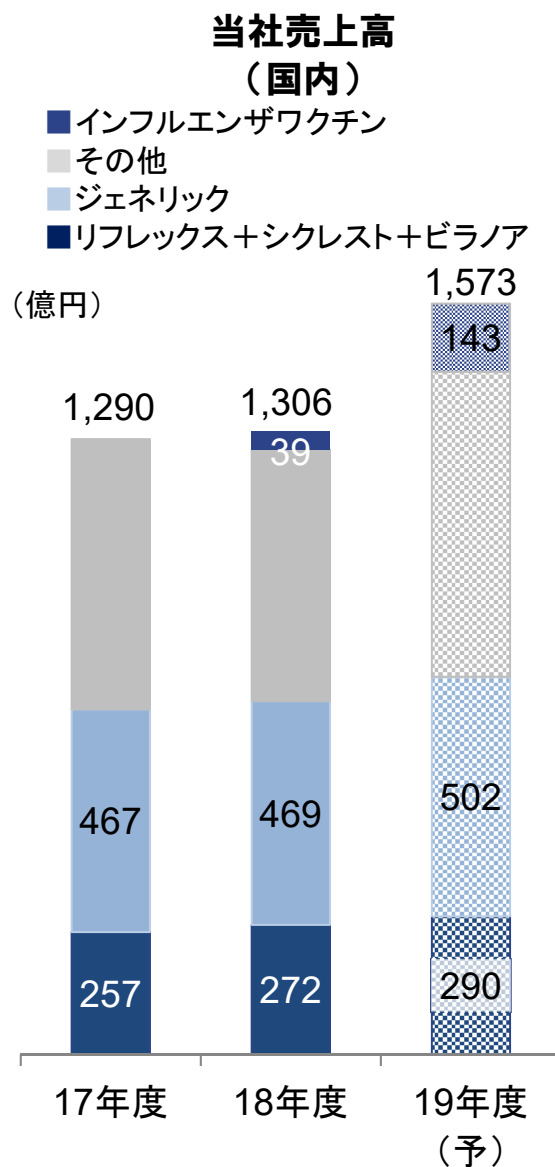
## 2. 付加価値商品の投入

- ・ 世界初製法の乳原料を使用した「明治おいしい低脂肪乳」「明治おいしいミルクカルシウム」を発売

## 3. 生産体制の最適化

- ・ 北陸工場の閉場（2019年秋）
- ・ 継続的な見直し実施により固定費を削減



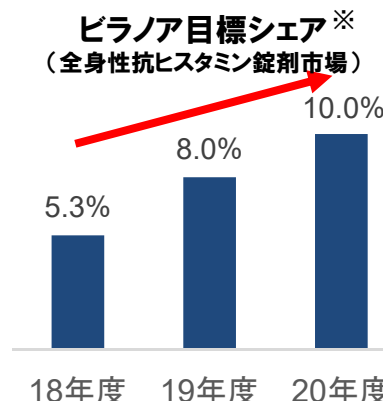


ビラノア

ワクチン

- アレルギー性疾患治療薬「ビラノア」シェア 2020年度10%に向けた取り組み

- 質・量ともに競合を圧倒する情報提供を行い、抗ヒスタミン薬で独自のポジションを確立



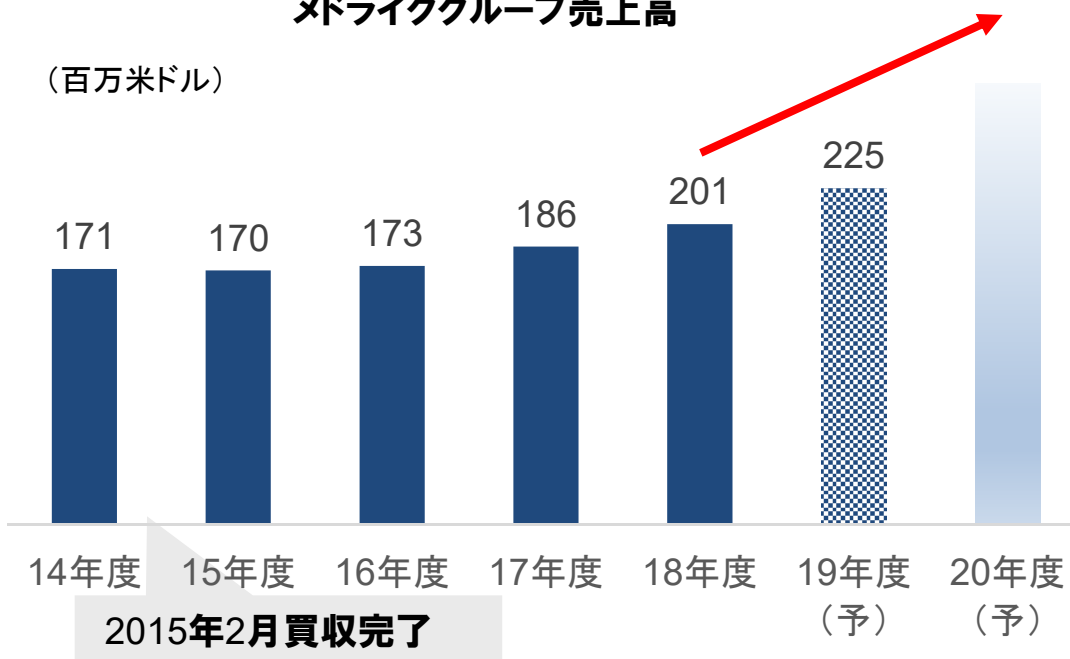
- KMバイオロジクスとMeijiSeikaファルマで製販一体となった競争優位性の発揮

- 任意接種のインフルエンザHAワクチンは卸との協業体制の確立による安定供給と返品削減

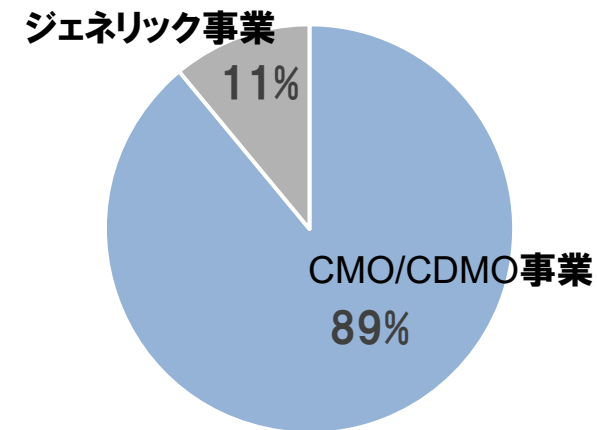
- 定期接種の小児用ワクチン(4種混合他)は小児科定期訪問先と訪問件数の増加

メドライクグループ売上高

(百万米ドル)



19年度(予)売上高内訳



CMO: Contract Manufacturing Organization (医薬品受託製造機関)  
 CDMO: Contract Development and Manufacturing Organization (医薬品受託製造開発機関)

CMO・CDMO

- 既存顧客から受注増に加え新規顧客獲得も進み着実に成長
- 開発体制の強化により20年度に大きな成長を目指す

ジェネリック

- 日本向け製剤は調剤チェーンの攻略と、他社向け製剤供給を強化
- 英国、豪国などは需要の的確な把握により安定成長を目指す



## 中期経営計画基本コンセプト

### 信頼の回復

- あらゆるステークホルダーの皆様に信頼いただける企業を目指す
- 具体的な活動方針「**全社重点方針**」を定め進捗管理を徹底

#### 全社重点方針

##### 1. ガバナンス/信頼性保証体制構築

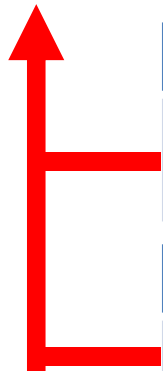
- ・品質保証体制強化
- ・インテグリティの実践強化

##### 2. 確実生産/安定供給

- ・安定生産体制の確立
- ・欠品リスク回避

##### 3. 選択と集中

- ・優先順位明確化
- ・研究開発品早期上市



#### 部門方針

##### 研究・開発

- ・確実な意思決定とそのための方針の強化
- ・開発品のスケジュール通りの進捗  
5種混合ワクチン20年度承認申請

##### 生産

- ・最適生産体制の確立  
人的リソースの活用  
既存施設の有効活用  
効率的製造ライン

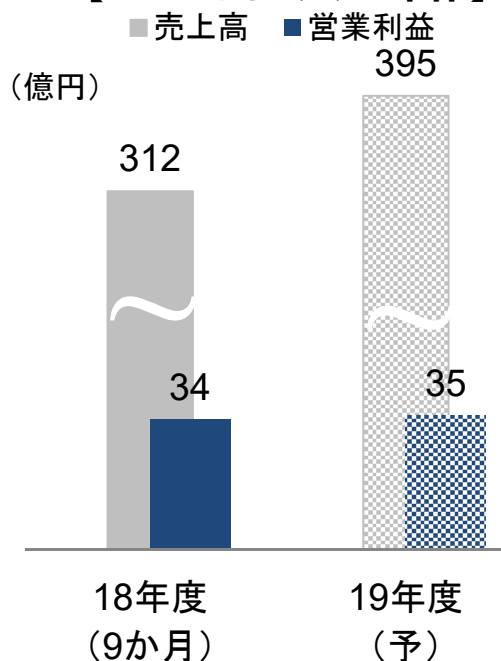
##### 営業

- ・主力品目の継続供給によるシェア回復
- ・契約、販売体制の見直し

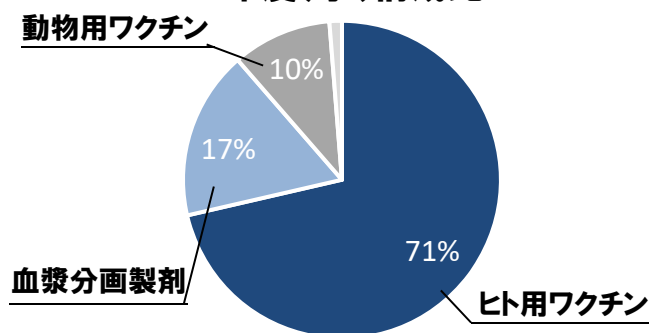
##### 品質

- ・従業員の意識向上と改善活動の推進
- ・インテグリティの実践強化
- ・グローバル化の推進

売上高・営業利益  
【KMバイオロジクス単体】



19年度(予)構成比



ヒト用ワクチン

- Meiji Seika ファルマとの連携強化により主力製品(インフルエンザワクチン、小児用ワクチン)のシェアを拡大
- 生産効率化に取り組みコスト削減を実施

血漿分画製剤

- 日本血液製剤機構との連携強化により主力製品(生体組織接着剤、人血液凝固因子、アルブミン)の販売を拡大

動物用ワクチン

- Meiji Seika ファルマと連携し、最適な営業体制を確立
- 展開品目の絞り込みによる選択と集中

# 2019年度通期 キャッシュフロー、株主還元



(億円)	19年度 計画	前年同期比		主な内容
営業キャッシュフロー	1,079	△42		・税金の支払増
投資キャッシュフロー	△995	+7		<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備投資額の増加 【設備投資額】 食品 861億円(前年同期比+247) 医薬品 129億円(前年同期比+33)</li> <li>・前年KMバイオロジクス株式取得支出の反動</li> </ul>
フリーキャッシュフロー	84	△34		
1株当たり配当金	140円	—	(2Q)70円	(期末)70円
配当性向	30.1%	△2.7pt	—	
ROE	12.3%	+0.1pt	—	

## 3. 2020中期経営計画

方針1. コア事業での圧倒的優位性の獲得

方針2. 海外市場での成長基盤の確立

★ 方針3. 健康価値領域での新たな挑戦

事業ビジョン

推進にあたって

- ・外部リソースの活用
- ・革新的な生産性向上

CSRビジョン

経営基盤ビジョン

★ 方針4. 社会課題への貢献

活動テーマを設定し、取り組みを推進

- 心とからだの健康に貢献
- 環境との調和
- 豊かな社会づくり

- 日本・世界で成長し続けるための機能的・戦略的なマネジメント体制の整備
- 一人一人の力が発揮できる環境・仕組み・風土づくり
- meijiブランドの進化

→ マテリアリティやKPIなどの詳細はP52-53参照

## 健康価値 領域での 仕掛け

- **新研究所「価値共創センター」設立**
  - ・食品事業・医薬品事業で培った知見を融合した健康寿命延伸につながる独自価値を創造
  - ・オープンイノベーションの推進により最先端の知識や技術の結集とその活用を推進
  - ・具体的な研究テーマは「老化」「食事療法」「マイクロバイオーーム（腸内細菌叢）」

## 経営基盤 の進化

- **後継者計画(サクセッションプラン)の策定**
  - ・HD、明治、MeijiSeikaファルマの3社が対象
  - ・求める経営人材像(リーダーシップバリュー)に基づき候補者の選定を毎年実施
- **コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー2018受賞**



Corporate Governance  
of The Year

コーポレートガバナンス・オブ・ザ・イヤー®2018  
WinnerCompany



## CSRの 推進

環境との  
調和

- **脱炭素社会に向けた取り組みを推進**
  - ・ CO2排出量の開示データの範囲を拡大、海外グループ会社のデータ集計体制の構築を実施
  - ・ 19年度は十勝工場、九州工場に新たに太陽光発電設備を導入

豊かな  
社会づくり

- **液体ミルクの発売**
  - ・ 災害備蓄用途としてミルクの品質を守ることができるスチール缶を採用、常温で1年間保存可能
  - ・ 調乳作業が不要で育児の負担軽減にも貢献



## CSRの 推進

持続可能な  
調達活動

国連機関・  
関連団体  
との連携

- 調達ガイドライン(カカオ、パーム油、紙)の策定
  - ・ 紙調達ガイドラインに基づき、FSC認証紙および再生紙の使用を推進
  - ・ RSPO認証パーム油の代替計画を立案
- メイジ・カカオ・サポート
  - ・ 各国における明治独自のカカオ農家支援の取り組みに加え、WCF(世界カカオ財団)との連携を強化
- 国内酪農家との取り組み
  - ・ 牛乳の価値向上の取り組みを推進
- 国連グローバルコンパクトへの署名
  - ・ 人権デュー・ディリジェンスの実施



		2020年度目標
<b>成長性・ 収益性</b>	連結売上高	1兆3,500億円
	連結営業利益 (率)	1,250億円 (9.3%)
	海外売上高	1,420億円
	海外営業利益	95億円
<b>効率性・ 安全性</b>	ROA	11%台
	D/Eレシオ	0.5以下
<b>株主還元</b>	ROE	13%台
	配当性向	30%を目安に安定的継続的な 利益還元

- KMバイオロジクスを連結したものの、2020年度の目標は当初計画を据え置く

## 参考資料：財務データ

**2018年度**

# 2018年度 連結営業利益増減分析



(億円)	連結	食品	医薬品	他
17年度	946	841	110	△5
売上増減	△8	△32	+24	—
薬価改定	△121	—	△121	—
原価の変動	+113 <sup>(*1)</sup>	+23	+90	—
経費等の増減	+46 <sup>(*2)</sup>	+29	+17	—
その他(子会社損益含む)	+7	△14	+22	△1
18年度	983	847	142	△6

\*1: 主な内訳…【食品】原材料コスト+13、商品政策・効率化+10

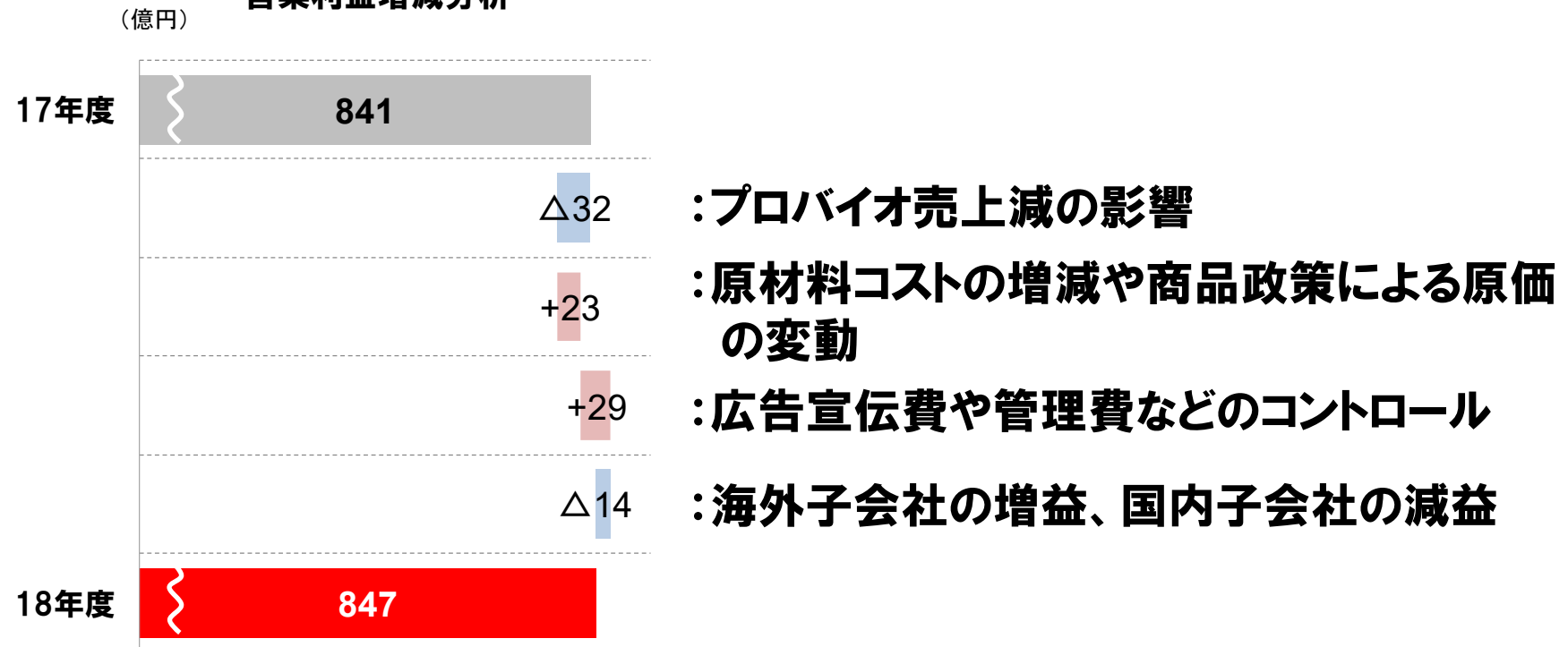
【医薬品】原価低減及び生産体制の見直しに伴う在庫評価替による差異

\*2: 主な内訳…【食品】物流費増△11、その他+40

【医薬品】研究開発費減+11、固定販売費+25、その他△19

(億円)	17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績	18年度実績	
				前年同期比	計画比
売上高	10,736	10,671	10,566	△1.6% △170	△1.0% △104
営業利益	841	881	847	+0.7% +5	△3.8% △33

## 営業利益増減分析



(億円)		17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績		
					前年同期比	計画比
発酵 デ イ リ ー	売上高	3,385	3,324	3,301	△2.5% △83	△0.7% △22
	営業利益	520	489	478	△8.1% △42	△2.2% △10
加 工 食 品	売上高	1,741	1,764	1,765	+1.4% +23	+0.1% +0
	営業利益	74	83	82	+10.9% +8	△1.5% △1
菓 子	売上高	1,335	1,245	1,222	△9.8% △133	△1.8% △22
	営業利益	197	216	204	+3.7% +7	△5.5% △11

- 発酵デイリー:プロバイオの不調により減収減益
- 加工食品:チーズ、アイスクリーム等が好調で増収増益
- 菓子:取引制度変更の影響やスナックの販売エリア縮小などにより減収、利益は増益を確保

(億円)		17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績		
					前年同期比	計画比
栄養	売上高	841	857	851	+1.3% +10	△0.6% △5
	営業利益	124	133	129	+4.6% +5	△2.5% △3
海外	売上高	434	490	471	+8.5% +37	△3.8% △18
	営業利益	7	10	12	+76.2% +5	+21.7% +2
国内 その他 子会社	売上高	2,978	2,989	2,953	△0.8% △24	△1.2% △36
	営業利益	43	41	38	△11.5% △4	△8.2% △3

- 栄養:スポーツ栄養が好調に推移し増収増益
- 海外:中国事業が好調に推移し増収増益
- その他国内子会社:砂糖商社や畜産品会社等の不調により減収減益

(億円)	17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績	前年同期 増減率	通期計画 増減率
ヨーグルト	841	880	849	+0.9%	△3.5%
明治ブルガリアヨーグルト	779	812	788	+1.1%	△2.9%
プロバイオティクスヨーグルト	1,194	1,173	1,129	△5.5%	△3.8%
牛乳類	1,071	1,065	1,083	+1.1%	+1.6%
明治おいしい牛乳	577	570	562	△2.7%	△1.5%
チーズ	352	364	366	+4.1%	+0.4%
明治北海道十勝チーズ	130	141	137	+5.6%	△2.8%
アイスクリーム	430	451	451	+4.7%	△0.1%
チョコレート	1,040	990	954	△8.3%	△3.6%
栄養食品	528	559	552	+4.4%	△1.3%
スポーツ栄養	191	211	197	+3.4%	△6.5%

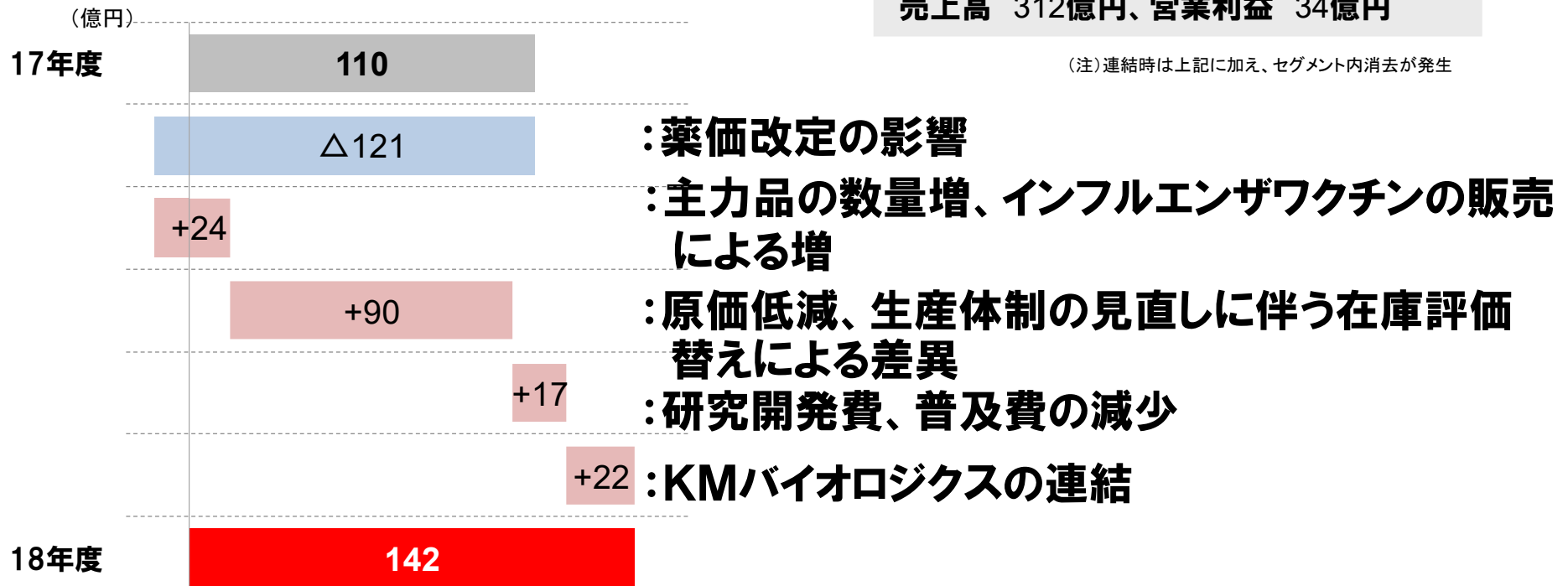
- プロバイオは減収、チョコレートも取引制度変更影響により減収
- チーズ、アイスクリーム、栄養食品、スポーツ栄養は成長続く



(億円)	食品全体	発酵 デイリー	加工食品	菓子	栄養	海外	その他 国内子会社	全社 共通費	
17年度通期 営業利益	841	520	74	197	124	7	43	△124	
前年 増減額	売上増減	△32	△57	+21	△3	+7	+0	—	0
	原価の変動	+23	+10	+2	+6	+4	+1	—	0
	経費等の増減	+29	+8	△14	+6	△1	△1	—	+31
	その他 (子会社損益など)	△14	△4	+0	△1	△3	+5	△5	△5
18年度通期 営業利益	847	478	82	204	130	12	38	△98	

(億円)	17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績	18年度実績	
				前年同期比	計画比
売上高	1,684	2,000	1,986	+17.9% +302	△0.7% △13
営業利益	110	135	142	+29.2% +32	+5.5% +7

### 営業利益増減分析



(億円)		17年度 実績	18年度 計画	18年度 実績		
					前年同期比	計画比
国内	売上高	1,290	1,294	1,306	+1.3% +16	+1.0% +12
	営業利益	66	94	99	+50.0% +33	+5.7% +5
海外	売上高	394	426	410	+4.1% +16	△3.9% △16
	営業利益	44	11	21	△51.5% △22	+94.0% +10
KM バイオリジクス	売上高	—	300	312	— +312	+4.2% 12
	営業利益	—	35	34	— +34	△1.2% △0

- 国内:主力品やワクチンの販売により増収、原料調達価格の減少や生産体制の変更に伴う在庫評価替えの影響により増益
- 海外:海外子会社は順調、輸出品のコストアップにより減益
- KMバイオリジクス:インフルエンザワクチンや4種混合ワクチンが順調に推移

# 2018年度 連結PL



(億円)	18年度 実績	前年同期比	主な内容
売上高	12,543	+1.1% +135	— (詳細はP28-35参照)
営業利益	983	+3.9% +37	— (詳細はP28-35参照)
営業外収益	38	+7.1% +2	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 為替差損益: 8億円の減益影響 (前期)為替差益(4) (今期)為替差損(3)</li> </ul>
営業外費用	25	+5.6% +1	
経常利益	997	+4.0% +38	—
特別利益	134	+77.7% +58	• 負ののれん発生益(+65)
特別損失	185	+50.2% +62	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 減損損失(+80)</li> <li>• 固定資産廃棄損(△27)</li> </ul>
税金等調整前純利益	945	+3.8% +35	—
法人税等	309	+6.4% +18	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 法人税、住民税及び事業税(+27)</li> <li>• 法人等調整額(△8)</li> </ul>
非支配株主に 帰属する純利益	17	+154.8% +10	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	618	+1.0% +5	—

# 2018年度 連結BS



(億円)	19年3月末 実績	前期末比	主な内容
流動資産	4,214	+10.0% +384	・商品及び製品(+188)、原材料及び貯蔵品(+93):KMバイオロジクスの新規連結 ・受取手形・売掛金(+64)
固定資産	5,826	+7.5% +404	・建物及び構築物(+195)、機械装置及び運搬具(+193):新規連結など ・建設仮勘定(+96) ・のれん(Δ105)
資産合計	10,041	+8.5% +789	—
流動負債	2,915	Δ1.0% Δ29	・短期借入金(Δ161) ・支払手形及び買掛金(+53) ・未払法人税等(+27)、未払費用(+23) ・賞与引当金(+10)
固定負債	1,520	+12.1% +163	・長期借入金(+134) ・退職給付に係る負債(+35)
負債合計	4,435	+3.1% +134	—
株主資本	5,075	+9.0% +419	・利益剰余金の増加(+416)
その他の包括利益 累計額	197	Δ9.1% Δ19	・為替勘定調整勘定(Δ20)
非支配株主持分	333	+323.5% +254	—
純資産合計	5,606	+13.2% +654	—
有利子負債	1,163	Δ2.3% Δ27	・短期借入金(Δ161) ・長期借入金(+134)
自己資本比率	52.5%	Δ0.2pt	—

## 2018年度 連結CF、株主還元



(億円)	18年度 実績	前年同期比	主な内容
営業キャッシュフロー	1,121	+33	<ul style="list-style-type: none"> <li>・売上債権減による収入増(+119)</li> <li>・仕入債務減による支出増(△70)</li> </ul>
投資キャッシュフロー	△1,002	△358	・連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出(△338)
フリーキャッシュフロー	118	△324	—
1株あたり配当金	140円	+10円	

**2019年度**

# 2019年度 連結計画



(億円)

		上期		下期		通期	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
連結	売上高	6,250	+2.1% +130	6,840	+6.5% +415	13,090	+4.4% +546
	営業利益	440	+0.4% +1	640	+17.3% +94	1,080	+9.8% +96
	経常利益	450	+2.6% +11	640	+14.6% +81	1,090	+9.3% +92
	親会社株主に帰属する 四半期純利益	285	Δ25.6% Δ98	390	+65.6% +154	675	+9.1% +56
食品	売上高	5,340	+1.7% +91	5,560	+4.5% +241	10,900	+3.2% +333
	営業利益	390	+0.0% +0	509	+11.2% +51	900	+6.2% +52
医薬品	売上高	921	+5.1% +44	1,284	+15.6% +173	2,205	+11.0% +218
	営業利益	51	+0.0% +0	134	+46.8% +42	185	+29.9% +42



# 2019年度 食品セグメント内 事業別計画



(億円)		上期		下期		通期	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
発酵 デリー	売上高	1,662	+0.4% +7	1,655	+0.6% +9	3,318	+0.5% +16
	営業利益	221	Δ1.3% Δ2	267	+5.0% +13	488	+2.1% +10
加工食品	売上高	908	Δ0.6% Δ5	872	+2.4% +21	1,780	+0.9% +16
	営業利益	49	+13.5% +5	42	+10.6% +4	92	+12.1% +10
菓子	売上高	521	+3.4% +16	791	+10.1% +73	1,312	+7.3% +90
	営業利益	60	Δ3.7% Δ2	158	+12.1% +17	219	+7.3% +15
栄養	売上高	457	+2.7% +12	426	+4.9% +20	883	+3.8% +32
	営業利益	75	+3.9% +2	57	+0.4% +0	133	+2.4% +3

# 2019年度 食品セグメント内 事業別計画



(億円)		上期	前年同期比	下期	前年同期比	通期	前年同期比
		海外	売上高	246	+13.5% +29	287	+13.0% +33
営業利益	5		+0.5% +0	7	+4.3% +0	12	+2.8% +0
国内 その他 子会社	売上高	1,543	+2.1% +31	1,527	+6.0% +85	3,070	+4.0% +117
	営業利益	21	△7.7% △1	21	+46.8% +6	43	+13.2% +5
全社 共通費	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益	△43	— △1	△45	— +10	△88	— +9

# 2019年度 医薬品セグメント内 事業別計画



(億円)		上期		下期		通期	
			前年同期比		前年同期比		前年同期比
国内	売上高	641	+10.2% +59	932	+28.7% +207	1,573	+20.4% +267
	営業利益	44	+7.3% +3	68	+18.8% +10	113	+13.9% +13
海外	売上高	212	+3.3% +6	232	+14.1% +28	445	+8.7% +35
	営業利益	5	△33.2% △2	16	+21.7% +2	21	+2.3% +0
KM バイオロジクス	売上高	146	+46.3% +46	249	+17.0% +36	395	+26.4% +82
	営業利益	△4	— △20	39	+113.2% +20	35	+1.2% +0
修正・消去	売上高	△78	— △64	△131	— △102	△209	— △167
	営業利益	5	— +20	9	— +7	15	— +27

# 2019年度 連結営業利益増減分析



(億円)	連結	食品	医薬品	他
18年度実績	983	847	142	△6
売上増減	+142	+104	+38	—
原価の変動	△55 <sup>(*1)</sup>	△23	△32	—
経費等の増減	△61 <sup>(*2)</sup>	△50	△11	—
その他(子会社損益含む)	+71	+22	+48	+1
19年度計画	1,080	900	185	△5

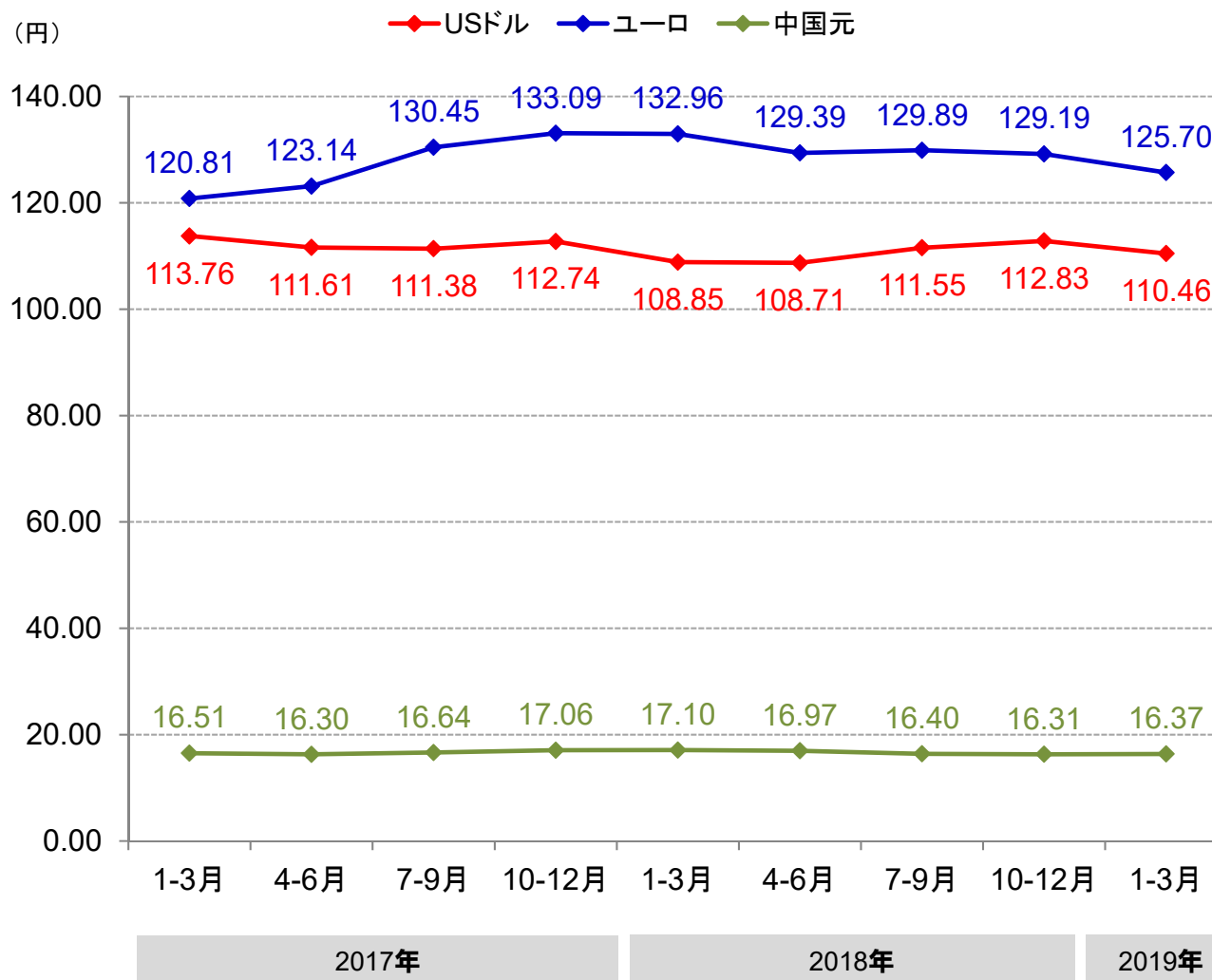
- \*1: 主な内訳…【食品】原材料調達コスト△42、商品政策・効率化+19  
 【医薬品】原価低減+7、在庫評価替えによる差異△39
- \*2: 主な内訳…【食品】拡売費・宣伝費増△53、物流費減+2、その他+1  
 【医薬品】普及費増△18、その他+7

**参考資料:トピックス**

	方針	進捗状況
生産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業戦略に応じた最適な生産体制構築</li> <li>・省人化施策の推進</li> <li>・理想的なものづくり実現への課題解決</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の強化 (カマンベールチーズ・牛乳・チョコレート など)</li> <li>・生産体制集約 (北陸、根室 など)</li> </ul>
物流	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定的な輸配送</li> <li>・磐石な物流品質の実現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関東地区拠点統合の実効</li> <li>・関西地区拠点統合</li> <li>・既存拠点の効率化や共配の推進</li> </ul>
営業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大手取引先への対応強化</li> <li>・店頭実現力の向上</li> <li>・戦略的営業組織の構築</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支社組織変更(18年4月) 事業を横断した戦略的組織への統合・再編</li> <li>・本社組織変更(19年4月) 長期視点での価値創造体制を強化</li> </ul>
管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リスクマネジメントの強化</li> <li>・業務統合のさらなる推進</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・管理部門のセンター化 (経理・労務・システム)</li> <li>・働き方改革 (フレックス、在宅、TV会議 など)</li> </ul>

# 主要通貨と当社平均レート

## 主要通貨と当社平均レートの推移



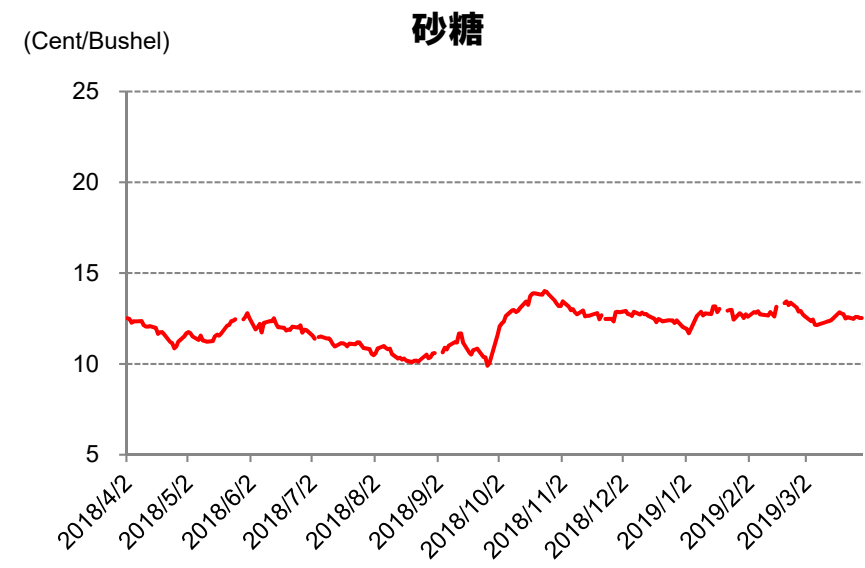
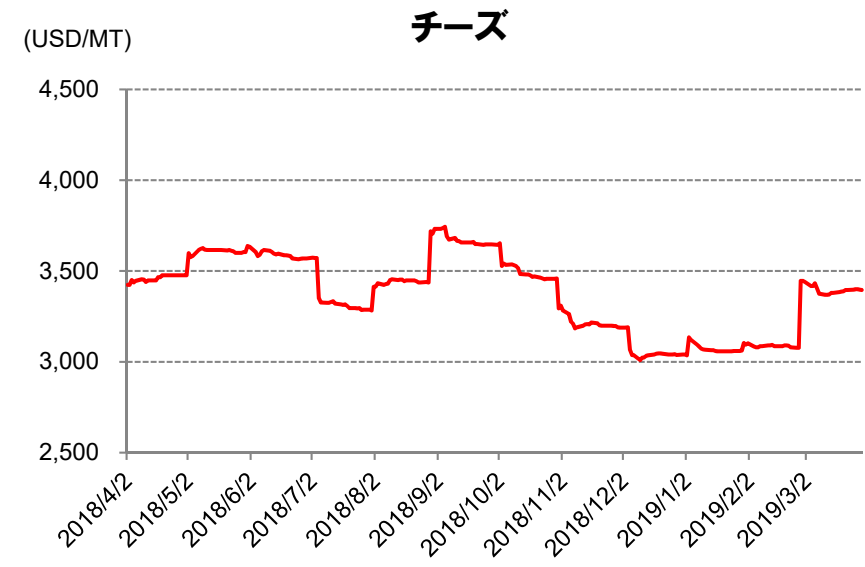
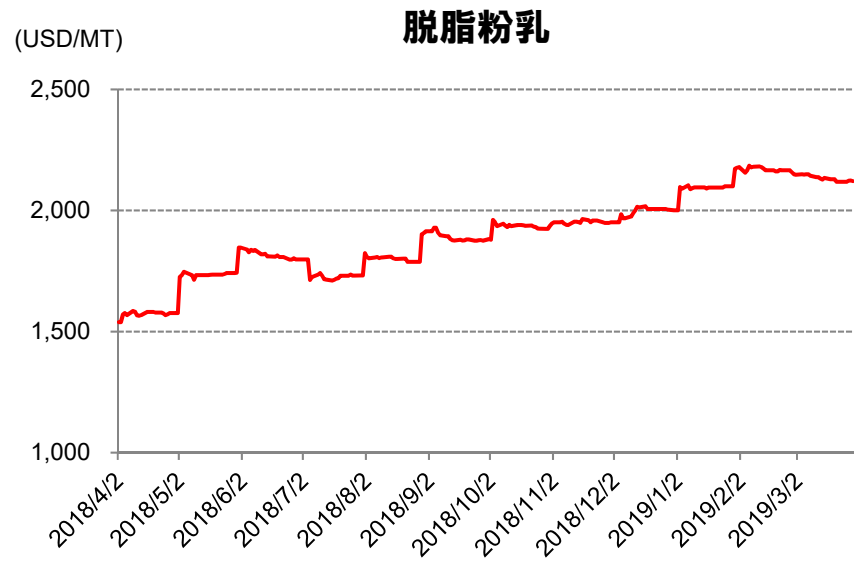
## 19年度計画の為替前提

USD	110円
ユーロ	130円
中国元	17円

## 2020中計の為替前提

USD	食品 115円 薬品 110円
ユーロ	食品 125円 薬品 120円
中国元	食品・薬品 16円

# 主要輸入原料相場の動向



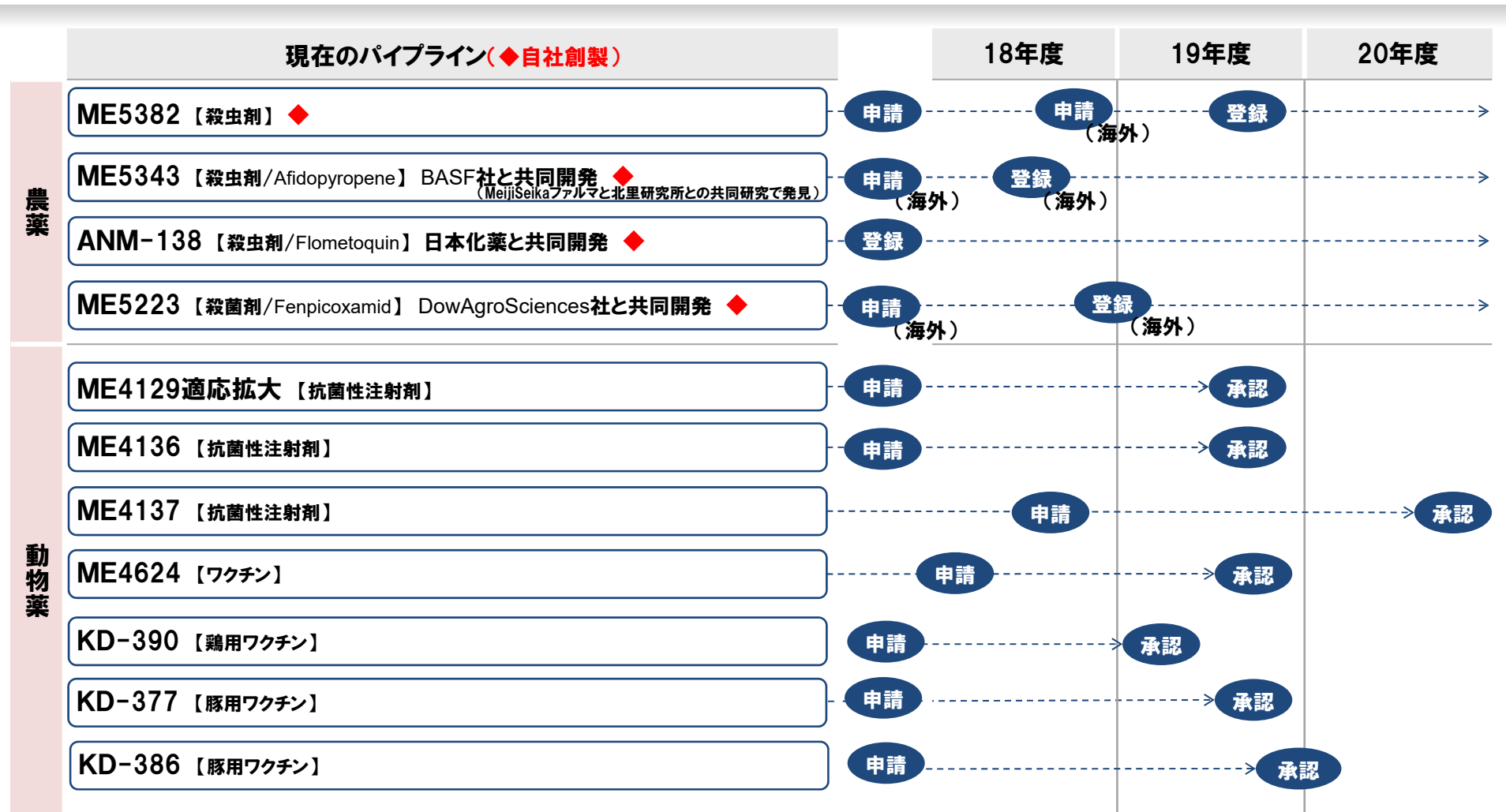


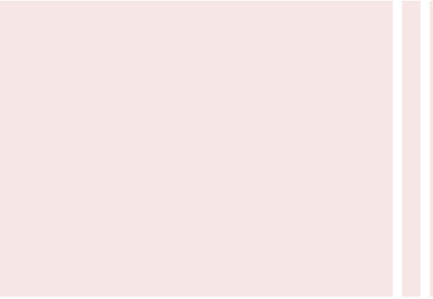
# 開発パイプライン



現在のパイプライン(◆自社創製)		18年度	19年度	20年度
感染症	ME1111 【爪真菌症治療薬】 ◆	PhaseII		
	ME1100 アルベカシン 【院内感染肺炎/人工呼吸器関連肺炎治療薬】 ◆	PIb (海外)		
	OP0595 【β-ラクタマーゼ阻害薬】 ◆	PI 単剤	PI 併用	
中枢神経系	ME2125 サフィナミド 【パーキンソン病治療薬】 ※	PII/III	申請	承認
	ME2112 ジプラシドン 【統合失調症治療薬】	PhaseIII		申請
その他	SP-02L ダリナパルシン 【再発・難治性末梢性T細胞リンパ腫治療薬】	PhaseII		
	DMB-3111 【トラスツズマブ(ハーセプチン バイオ後続品)】 ※	導出 (PI終了)		申請
ヒト用ワクチン	KD-370 【百日せき菌、ジフテリア菌、破傷風菌、ポリオウイルス、ヘモフィルスインフルエンザ菌b型による感染症の予防】	PhaseIII		
	KD-382 【デング熱の予防】	PhaseI (海外)		
	KD-404 【インフルエンザの予防】	PhaseI/II		
血漿分画製剤	KD6-71 【慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(多巣性運動ニューロパチーを含む)の筋力低下の改善用】	PIII	申請	承認
	KD5-71 【視神経炎(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)(希少疾病用医薬品)】	PIII	申請	承認
	KD-371 【顕微鏡的多発血管炎における神経障害の改善(ステロイド剤が効果不十分な場合に限る)(希少疾病用医薬品)】	PhaseIII		

# 開発パイプライン





**meiji**

